

医薬品の供給不足問題の件

小林化工、日医工の法令違反を起した一部製品の供給遅延が今現在においても続いております。小林化工、日医工の出荷停止は、ジェネリック医薬品全体の安定供給に大きな影響をもたらしただけでなく、市場全体での供給不足となっております。前述の2社以外のジェネリックメーカー、特に東和薬品、沢井製薬に注文が殺到して新規契約が困難となっております。また、後発医薬品が入手できないので、先発医薬品に戻しての処方・調剤が生じており、その影響はジェネリックメーカーだけにとどまらず、ブランドメーカーにおいても同様の供給不足が発生する事態となっております。さらに、2月に発生した福島県沖の地震の影響で工場が被災した医薬品メーカーがあり、その影響も少なからず市場に影響しております。

当院におきましても、クエチアピン錠、リスパリドン内用液、ハルシオン錠等約10品目が入手困難状態にあります。

まずは服用される患者さんに迷惑をかけないよう医薬品の安定供給管理に努めたいと思います。在庫不足による処方変更等の際はご協力いただきたいと思います。

新型コロナウイルス感染症（新型コロナ）関連情報

厚生労働省は7月19日、中外製薬の新型コロナに対する抗体カクテル療法「ロナプリーブ」を特例承認しました。この薬剤はすでにアメリカで2020年11月21日に緊急使用許可を取得し、同様の許可はドイツやフランスでも取得しています。

新型コロナに対する治療として日本国内で適応を持つ薬剤は、これまで3種類（抗ウイルス薬のレムデシビル、ステロイド薬のデキサメタゾン、ヤヌスキナーゼ（JAK）阻害薬のバリシチニブ）が日本国内では認められておりますが、いずれも中等症以上の重症度で使用されるものです。

これに対してロナプリーブは4種類目にしてようやく条件次第ではありますが、軽症に使える初の薬です。また、この薬剤は初めから新型コロナの治療に対して開発された初めてのやくざいです。添付文書↓

https://chugai-pharm.jp/content/dam/chugai/product/ron/div/pi/doc/ron_pi.pdf

また、塩野義製薬株式会社が7月22日に経口投与の抗ウイルス薬として国内で第1相臨床試験を開始したと報じております。この治療薬はウイルスの増殖を抑制するとのこと。

他にもMSD製薬株式会社や富士フィルム等でも治験が進んでおり、新型コロナに対しての包囲網が静かに強化してくることを感じさせられます。

ドーピングのお話し

東京オリンピックが真っ最中です。日本人選手もがんばっております。このような国際競技が行われるとき少なからず話題に上がるものの一つにドーピングがあります。

ドーピングとは、スポーツにおいて禁止されている物質や方法によって競技能力を高め、意図的に自分だけが優位に立ち、勝利を得ようとするものです。ドーピングというと薬のイメージが強いかと思いますが、特定の医療行為に関してもドーピングとなってしまふ場合があります。また、そのような行為を隠す行為のことも指します。ドーピングは、フェアネスの精神に反し、自分自身の努力や、チームメイトとの信頼、競い合う相手へのリスペクト、スポーツを応援する人々の期待などを裏切る、不誠実で利己的な行為です。

風邪薬やサプリメントにも禁止物質が含まれていることがありますので注意が必要です。また、国際試合以外の競技会においてもドーピングの各基準があります。

【10のアンチ・ドーピング規則違反】

- ①競技者の検体に、禁止物質又はその代謝物若しくはマーカ存在すること
- ②競技者が禁止物質若しくは禁止方法を使用すること又はその使用を企てること
- ③検体の採取の回避、拒否又は不履行
- ④居場所情報関連義務違反
- ⑤ドーピング・コントロールの一部に不当な改変を施し、又は不当な改変を企てること
- ⑥正当な理由なく禁止物質・禁止方法を持っていること
- ⑦禁止物質・禁止方法を不正に取引し、入手しようとする事
- ⑧アスリートに対して禁止物質・禁止方法を使用または使用を企てること
- ⑨アンチ・ドーピング規則違反を手伝い、促し、共謀し、関与すること
- ⑩アンチ・ドーピング規則違反に関与していた人とスポーツの場で関係を持つこと

アンチ・ドーピングについては ↓

http://www.doyaku.or.jp/doping/data/oshietekudasai_anti-doping.pdf

★編集後記

クロザピンに関しては7月の医療安全研修会で説明いたしました。
東京オリンピック・パラリンピック、がんばれニッポン！
新型コロナも心配です。

